

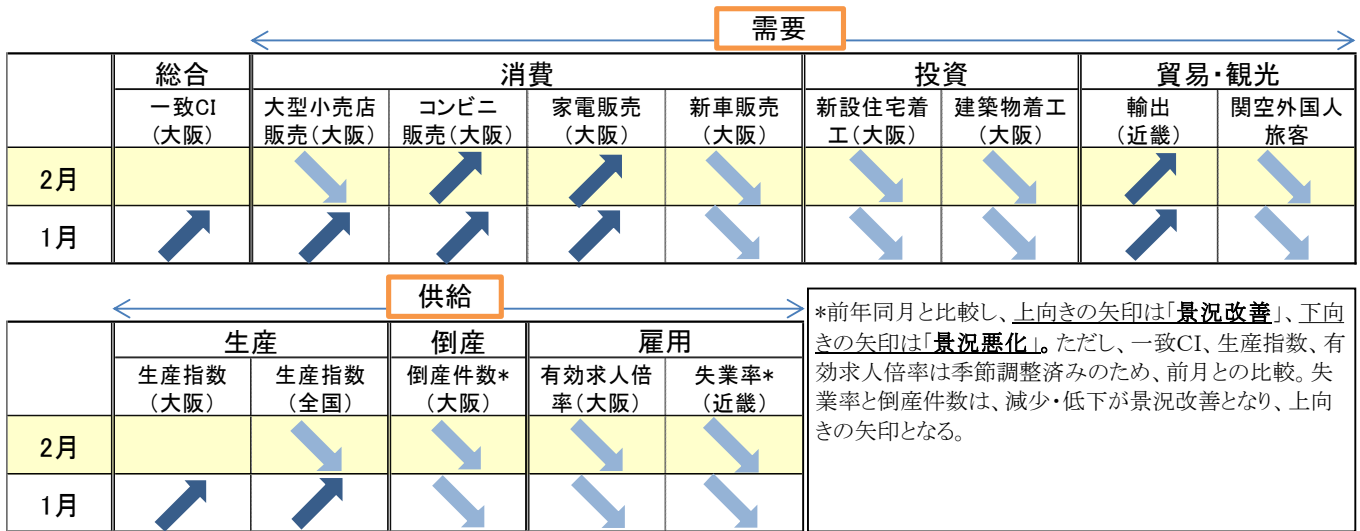
大阪経済の情勢（2026年2月指標を中心に）

「大阪経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している」

需要面では、個人消費は、持ち直している。コンビニ販売額、家電販売額は増加。百貨店・スーパー販売額、新車販売台数は減少。家計消費支出(近畿;1月)は増加。投資は、持ち直しの動きがみられる。住宅投資、非居住用建設投資はともに減少。公共投資は増加。輸出は、持ち直しの動きに一服感がみられる。輸出額は増加。主要国向けでは、アジア向け・ASEAN向け・EU向けで増加。輸入額は増加。

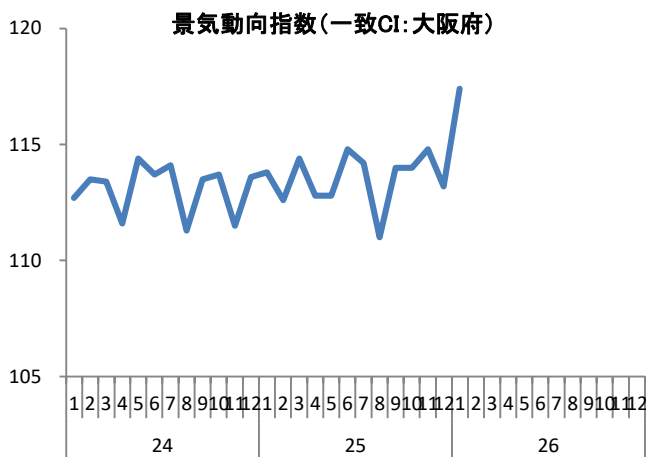
供給面では、生産動向は、弱い動きとなっている。大阪府(1月)は、生産、出荷はともに上昇。近畿の生産(1月)は上昇。全国の生産(2月)は低下。企業倒産では、件数は悪化、負債金額は改善。雇用は、持ち直しの動きが弱まっている。近畿の失業率は悪化。有効求人倍率、新規求人倍率は低下。所定外労働時間(1月)は上昇。

先行きでは、中東情勢による経済への影響や、世界の経済・金融の動向について、引き続き注意が必要。



●景気動向指数(CI)

大阪府(1月)では、一致CI、先行CIはともに上昇。大阪府(一致CI)では、主に「生産財出荷指数」「製造工業生産指数」などが上昇に寄与。



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」 ※2020年=100

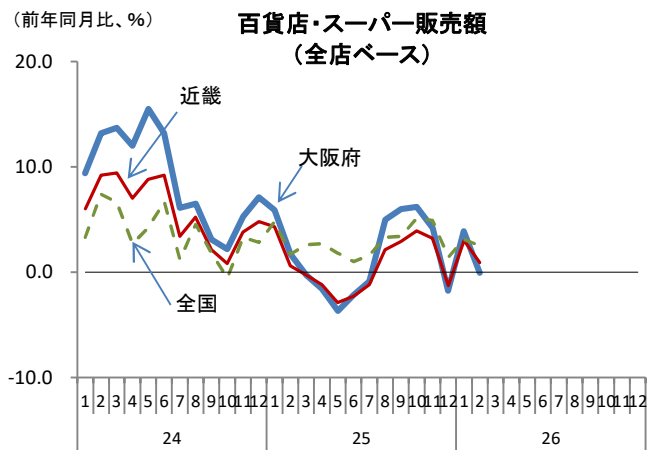
一致CIの個別系列の寄与度* (大阪府、1月速報)

百貨店売場 面積当たり 販売額	大阪税関 管内輸入通 関額	製造工業 生産指数	生産財 出荷指数	人件費比率 (製造業)	有効求人 倍率	所定外労働 時間指数 (製造業)
0.70	0.41	1.20	1.29	0.91	▲0.28	0.02

※CIの変化が、個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

●個人消費

個人消費は、持ち直している。コンビニ販売額、家電販売額は増加。百貨店・スーパー販売額、新車販売台数は減少。家計消費支出(近畿;1月)は増加。



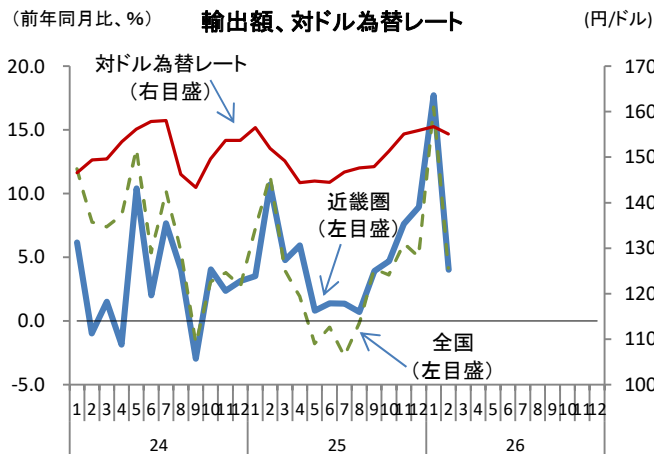
(資料)近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」

業態別の増減 (大阪府、全店、前年同月比 (%), 2月速報)

大型小売店 合計		▲0.1
うち	百貨店	▲3.3
	スーパー	3.7

●貿易

輸出は、持ち直しの動きに一服感がみられる。輸出額は増加。主要国向けでは、アジア向け・ASEAN向け・EU向けで増加。輸入額は増加。



(資料) 大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」 ※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

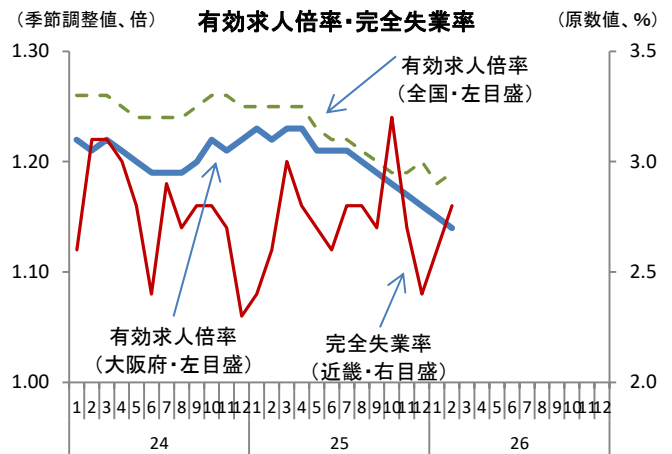
主要地域(国)別の増減(近畿、前年同月比(%))、2月)

アジア(含む中国)	0.3	24ヶ月連続の増加
中国	▲5.8	6ヶ月ぶりの減少
ASEAN	2.9	2ヶ月連続の増加
EU	16.4	2ヶ月連続の増加
アメリカ	▲3.3	3ヶ月連続の減少

(資料) 大阪税関「近畿圏貿易概況・速報」

●雇用

雇用は、持ち直しの動きが弱まっている。近畿の失業率は悪化。有効求人倍率、新規求人倍率はともに低下。所定外労働時間(1月)は上昇。



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」、総務省統計局「労働力調査」 ※近畿の完全失業率は原数値。

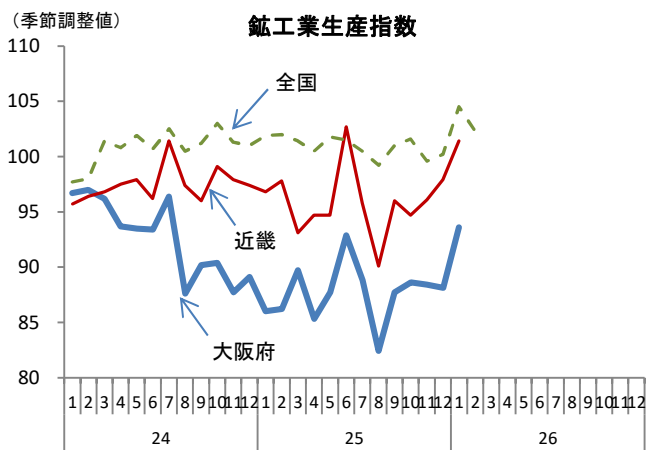
新規求人数の主要産業別増減(大阪府、前年同月比(%))、2月)

産業計	▲11.0
建設業	▲5.3
製造業	▲8.7
卸売業、小売業	▲21.1
宿泊業、飲食サービス業	▲39.1
医療、福祉	▲4.1

(資料) 大阪労働局「大阪労働市場ニュース」

●生産

生産動向は、弱い動きとなっている。大阪府(1月)では、生産、出荷はともに上昇。近畿の生産(1月)は上昇。全国の生産(2月)は低下。



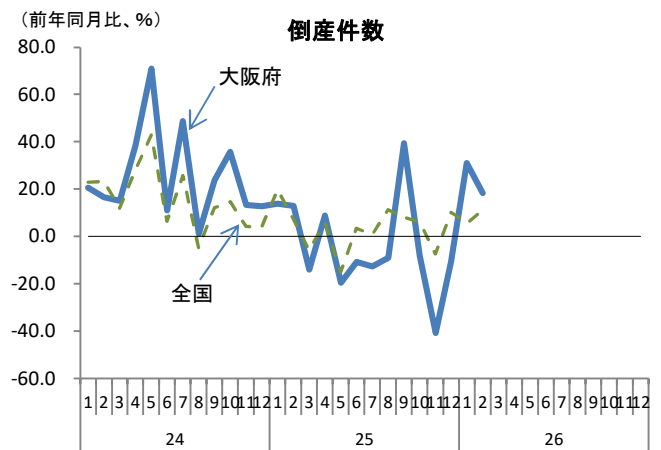
(資料) 大阪府統計課「大阪府工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」 ※2020年=100。

産業別の主な変動(大阪府、前月比(%))、寄与度順、1月速報)

上昇	電気・情報通信機械工業 (26.1) : プロジェクタ、セパレート形エアコン(室外) 輸送機械工業 (28.7) : 鉄道車両部品、シャシー車体部品
低下	化学工業 (▲4.7) : 医薬品、合成洗剤 食料品工業 (▲3.2) : 食用油脂、ウイスキー

●倒産

企業倒産では、件数は悪化、負債金額は改善。



(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」

主な倒産(大阪府、2月)

業種	負債額(百万円)
ホームページ作成ほか	1,036